



足立区議会だより

足立区議会事務局 ☎(882) 1111 No. 119

第 119 回
臨時会

常任委員会・特別委員会の新委員決まる 庁舎建設特別委員会を設置

会議のあらまし

区長提案は全て原案可決

足立区議会は、平成 2 年 第 1 回臨時会を 5 月 29 日(会期 1 日)に開き、区長が提出した契約議案 4 件(竹の塚温水プール改築工事ほか)及び議会を招集する

いとまがないため、区長が専決処分した事件(区税条例の一部改正)の承認を求める議案を、原案のとおり可決しました。

常任 委員の構成かわる

特別 議会は、委員の任期(1 年)が満了する各常任委員会の新委員を議長

の指名により決定しました。また、特別委員会の一部委員が辞任したため、欠員となつた委員を議長が新たに指名しました。(委員会名及び委員名は、名簿に記載のとおりです。)

特別委員会を設置

今臨時会では、新たに委員 14 名で構成する庁舎建設特別委員会を設置し、①庁舎建設について②庁舎関連交通対策について③庁舎周辺の環境整備についての審査を付議しました。

農業委員会委員を推せん

議会選出の農業委員、井上市三郎議員、瀬田富男議員の解任請求を決定し、新たに鈴木進議員、佐藤正弘議員を推せんしました。

監査委員の選任に同意

議会選出の監査委員、石川純議員、河合平内議員の監査委員退職に伴い、後任の監査委員として、巻田清治議員、白石正輝議員の選任同意を区長から求められ、議会はこれに同意しました。

新副議長に 白川由人議員



副議長 白川 由人

5 月 29 日の臨時会本会議において、斉藤八郎副議長が辞職しました。

このため、議会は同日副議長選を行い、選挙の結果白川由人議員が当選し、同日副議長に就任しました。
(略歴) 当選 2 回。行政改革調査特別委員長、土木、文教総務、予算特別、交通機関誘致対策特別の各副委員長等歴任。51 歳。足立区議会公明党。

足立区議会委員会名簿

(平成 2 年 6 月 8 日現在)

委員会名		委員氏名 (◎委員長 ○副委員長)							
常任委員会	総務委員会 (定数 11 名)	◎安達 正興 藤波 正寿 大島 芳江	○藤木 二幸 山本 明儀 川下 政信	○小久保雅捷 長塩 英治 針谷 幹夫	鈴木 進 野中 栄治				
	区民委員会 (定数 9 名)	◎西口喜代志 小野 実 芦川 武雄	○中川 外行 平沢 太郎	○浜崎 健一 鈴木秀三郎	杉山 秀雄 瀬沼 剛				
	厚生委員会 (定数 9 名) (欠員 1 名)	◎渡辺 修次 須賀 寿雄	○飯田 豊彦 白川 由人	○高島 直樹 白石 正輝	巻田 清治 大森 健司				
	土木委員会 (定数 9 名)	◎前島 誠一 宮原 進 忍足 和雄	○浅田 良作 中島 勇	○石川千代子 馬場繁太郎	大神田賢次 田中 章雄				
	都市環境委員会 (定数 9 名) (欠員 1 名)	◎瀬田 富男 河合 平内	○菅原 勲 佐藤 正弘	○上田 二郎 友利 春久	石川 純 瀬川 三則				
	文教委員会 (定数 9 名)	◎鹿浜 清 井上市三郎 藤沼 壮次	○今井 重利 斉藤 八郎	○藤崎 貞雄 伊藤 和彦	森 逸見 信雄 英幸				
特別委員会	交通機関誘致 対策特別委員会 (定数 14 名)	◎杉山 秀雄 安達 正興 山本 明儀 逸見 英幸	○芦川 武雄 小野 実 瀬沼 剛 針谷 幹夫	○藤沼 壮次 佐藤 正弘 友利 春久	石川 純 瀬田 富男 野中 栄治				
	庁舎跡利用 対策特別委員会 (定数 14 名)	◎馬場繁太郎 須賀 寿雄 長塩 英治 川下 政信	○森 信雄 上田 二郎 藤崎 貞雄 高島 直樹	○瀬川 三則 小久保雅捷 浜崎 健一	井上市三郎 鈴木秀三郎 大島 芳江				
	庁舎建設 特別委員会 (定数 14 名)	◎大神田賢次 藤木 二幸 平沢 太郎 忍足 和雄	○宮原 進 藤波 正寿 中川 外行 飯田 豊彦	○大森 健司 河合 平内 中島 勇	浅田 良作 鹿浜 清 渡辺 修次				
運営委員会 (11 名)		◎長塩 英治 安達 正興 西口喜代志	○宮原 進 鈴木 進 友利 春久	○渡辺 修次 藤沼 壮次 小野 実	藤木 二幸 中島 勇				

可決した主な議案

請負契約

- ①金額
②相手方

(方法は、全て「指名競争入札」)
竹の塚温水プール改築工事
① 29 億 1 千 284 万円 ② 清水・白谷建設共同企業体
同 プール改築機械設備工事
① 9 億 6 千 820 万円 ② 一工・関冷建設共同企業体

専決処分

東京都足立区特別区税条例の一

各党・各会派幹事長

などに一部交代

今回、各党・各会派の一部で幹事長等の交代がありました。

各党・各会派の名称、幹事長等は、次のとおりです。

自由民主党足立区議団(26 名)

幹事長 長塩 英治

副幹事長 藤沼 壮次

同 中島 勇

足立区議会公明党(13 名)

幹事長 宮原 進

副幹事長 西口 喜代志

同 友利 春久

日本共産党足立区議団(10 名)

団 長 渡辺 修次

副団 長 小野 実

副団 長 菅 原 勲

副幹事長 針谷 幹夫

日本社会党足立区議団(3 名)

幹事長 野中 栄治

副幹事長 瀬川 三則

民主クラブ(2 名)

幹事長 藤波 正寿

具体的なプランについては なお継続して調査研究

庁舎跡利用対策特別委員会

本特別委員会は、昭和 63 年第 4 回定例会で「足立区役所の位置を定める条例」が可決されたことに伴い、千住庁舎の跡利用等をいかにすべきかを付議事件として、昨年第 2 回臨時会において設置された。以下、審査及び調査の経過について報告する。

審議の進め方

第 1 回目の委員会では、付議事件の調査研究を促進するためには全委員が審議の方向を一にすることが肝要であるとの認識から、各委員の意見の開陳が行われた。

しかし、庁舎跡利用は千住地

域はもとより、足立区全体の活性化に寄与するものでなくてはならず、駅前再開発、学校統廃合を含む当区の施設建設計画等を総合的に検討する必要があるとの意見と、他の施設建設との整合性はある程度必要としながらも、当面は跡利用に焦点を絞って論議すべきとの意見に大別された。加えて、住民意向が把握できるまでは千住庁舎に行政機能の一部を残す可能性を留保すべきとの少数意見も出された。この問題は、その後も論議が重ねられたが、委員会としての結論には至っていない。

主な活動

この間、審査の参考に資するため、執行機関から千住庁舎の概況を中心に周辺駅乗降客数、千住地区事業所概況等、資料の提供を受ける一方、隣地域デザイン研究所より講師を招いて、「千住地域の活性化と庁舎跡利用について」講演会を開催した。さらに、本年 1 月には品川区立総合文化会館、並びに同メイプルセンターを視察した。

また、執行機関が独自に行ってきた委託による「本庁舎跡利用基礎調査」結果がまとまり、報告を受けたことに伴い、委員

会では、これまでの審査の内容を整理し、集約するため各委員から跡利用についてのプランを提出願うこととした。その大要は、集客力のある施設、千住地域及び区全体の活性化に寄与する施設、シンボルとなる施設、民間活力を導入した施設を選定の基準として、区全体の施設配置・バランスを考慮するという意見である。

今後の対応

これを見ると、千住地域は区全体の活性化に寄与でき、集客力のある施設という共通点は伺えるが、具体的にどのような施設を設置すべきかについては、今後さらに論議を重ねるべき課題が残されている。

以上の結果を踏まえ、今後とも本特別委員会は、資料の収集分析を行い、引き続き調査研究に努める必要がある。

○今号より本紙は、省資源化推進の一環として、再生紙を使用しています。

○また、前号（第 118 号）よりレイアウトを見直し、活字も大きくしました。今後も、区民の皆さんが読みやすく、親しまれる紙面づくりに努めてまいります。

○今臨時会では、副議長の改選をはじめ、各委員会委員等議会構成がかわりました。

また、各党・各会派内での役員にも一部変更があり、これに伴い区議会だより編集委員会委員も新たになりました。

区議会だよりに寄せられました、皆様のこれまでのご支援に感謝いたしますと共に、引き

常磐新線の早期実現に 向け、さらに強力な活動を

交通機関誘致対策特別委員会

本特別委員会は、前回の報告以降 9 回にわたり開催され、バス路線に関する陳情審査、及び舎人新線・常磐新線を中心に、その早期実現に向けて調査研究すると共に、超党派で関係機関への働きかけを行ってきた。

以下、その概要を報告する。

舎人新線

東京都・足立区・荒川区の三者で進めてきた最終の基礎調査報告書を踏まえ、日暮里駅導入部、荒川渡河部、車両基地等、事業化に向けての課題を整理確認すると共に、その解決と事業進捗の方法を検討してきた。

その活動として、事業化に遅れが出ている「多摩都市モノレール」の現地視察を行うと共に

足立・荒川両区で構成する「尾久・舎人新線建設促進協議会」を開催し、都の担当副参事から当該事業の問題点、解決策等の説明を受けた。さらに、「同協議会」では、建設省都市交通調査室より担当者を招き、「新交通システムの課題と展望について」講演会を開催した。講演の中、本新線は、国庫補助で調査費がついており、そのことは、事業化への条件が具備しているからであるとの評価を受けた。

また、執行機関からは、新線導入によるまちづくりの可能性方向性を委託調査した「舎人新線（仮称）沿線開発計画策定調査報告書」が発表され、それを受け、検討を重ねている。

常磐新線

運輸省から、当区内を通る従来の路線計画（運政審ルート）に対して地下鉄 11 号線を利用した代替ルートが提示された。このため、「常磐新線沿線開発調査報告書」を踏まえ、区内ルートと想定される都市計画街路補助 140 号線の整備状況について調査研究すると共に、「常磐新線の運輸政策審議会答申ルートによる早期実現に関する意見書」を昨年第 4 回定例会で可決し、国等へ要請行動を行った。さらに、「足立区議会常磐新線建設促進議員連盟」の結成に向けて努力している。

本年 4 月には、沿線自治体 12 区市町村で構成する都市連絡協

議会の主催で「常磐新線建設促進総決起大会」が開催され、運政審ルートの事業化着手、整備主体となる第 3 セクターの設立等、早期実現に向けて 5 項目の要望書を決議した。また、本年第 1 回定例会では、舎人新線建設資金積立基金条例の一部が改正され、常磐新線の建設資金をも積み立てるものとなった。

なお、積立金は元年度末で、約 47 億円となっている。

バス路線

陳情審査の過程で、陳情路線の収支予測等について、都交通局の担当課長を招き、詳細な説明を受けた。また、ガイドウェイバスシステム、区営バスの可能性等も含め、交通過疎地域

解消のため研究を重ねている。一方、交通事業者においても、深夜バスの増便、バス接近表示システムの導入等、サービスの改善が図られている。

今後の対応

交通網の整備は、区民の利便性の確保、快適なまちづくりのために不可欠であり、住民・議会・区が一体となって様々な問題を解決し、より一層の努力を重ねることが肝要である。

特に、常磐新線は、新しい局面を迎え、さらに強力な活動が求められている。本委員会は、今後とも両新線の早期実現及びバス路線網の整備促進を重点に積極的に調査研究を続ける必要がある。

特別委員会 の報告（要旨）

今臨時会で、交通機関誘致対策特別委員会及び庁舎跡利用対策特別委員会が調査の中間報告を行いました。

報告の要旨は、次のとおりです。

編集後記

区議会議員上野登氏（自由民主党、54 歳）には、病氣療養中のところ薬石効なく、5 月 23 日急逝されました。

同氏は、昭和 54 年区議会議員に初当選以来、土木委員長、総務委員長、都市環境委員長、予算特別委員長等の要職を歴任され、区政の伸展に多大の貢献をしてこられました。

ここに謹んで生前の功績をしのび、心からご冥福をお祈りいたします。

引き続きご支援をお願いいたします。



上野登議員 逝去さる

前編集委員

議長 田中 章雄
副議長 齊藤 八郎
須賀 寿雄 白川 由人
森 信雄 小野 実
白石 正輝 野中 栄治
藤沼 壮次 逸見 英幸
宮原 進

新編集委員

議長 田中 章雄
副議長 白川 由人
長塩 英治 西口喜代志
藤沼 壮次 小野 実
中島 勇 野中 栄治
宮原 進 藤波 正寿